

# TPiCS レポート

**Btrieve版TPiCS-VIIIも**  
完成しました。

**主要機能のDLLサブルーチン集も完成しました。**

Btrieveは **ODBCドライバ-を使わないように**しました。

実は、この改修はコンピュータ技術的にはかなりの大仕事で、昨年秋以降もなかなか安定せず小さな不具合を出し続けていたのはこのせいです。すみません！

**Jと英語版**のTPiCS-IVが予定より若干遅れてしまいましたが 1～2週間の内には完成できると思います。

また 所要量計算のスピードを向上させる為、データをメモリに取り込み、ファイルアクセスなしに計算出来るようにもしました。

DLLサブルーチンを使い、ボタンを一度クリックするだけで、受注データの読込から、所要量計算、作業量山積み、伝票データ作成、伝票印刷、計画確定まですべて無人で行うおまけのプログラムも作りしました。Microsoft Project との連携機能も付けました。

今回のレポートは、私にとって「VIIIが出来ました」とか「メモリ上で所要量計算出来るようにしました」「DLLが出来ました」等のニュースと比べ、もっと重要な意味を持つ内容が第一のテーマです。ユーザー様あるいはSI様がTPiCSを使ってご自身の全体システムを構築する時、そのシステムデザインのお手伝いを、TPiCSの仕事として始めようと思います。

これまで私は「カスタマイズの最善の技法は、カスタマイズしないことです」などと冗談まじりに言ってきました。「まずは、とにかくTPiCSを動かして下さい。使う前に考えるのと、使ってから考えるのでは、大きく違います。ものごと何でもそんなものですが、TPiCSは奥が深い分ことさらその差が大きいのです。カスタマイズは動いてから考えても遅くない筈です」と言ってきました。

「カスタマイズシステムのデザイン」を始めるからと言って、その基本的考えを変えた訳ではありません。

しかし いくら「カスタマイズをしない」と言っても、現実に●販売管理のシステムが動いていれば、そのシステムとデータの授受を行わなければなりません。得意先から納入指示のデータが送られて来れば、それを取り込んで生産計画に結び付けなければなりません。あるときは●自動倉庫との関係、あるときは●POPとの関係も必要かもしれません。●CADからのデータを受け取らなければならないこともありますし、●古いオフコンのデータを利用してシステムを立ち上げることを考えるかもしれません。システムがきちんと稼働すれば●納入業者毎の、納入遅延回数リストや 作業班毎の達成率の表を印刷したくなるのも人情です。●要因別不良率リストも必要かもしれません。

今どきTPiCSが、他のシステムと全く無関係に稼働できるケースは逆に少ない筈です。従来は、それらのことはSI様をお願いするか、力のあるユーザー様にはご自分で対応して頂いていました。質問を頂けば、それに対しお答えはして来ましたが、「私の仕事はカスタマイズではなく、TPiCS以外の方が、カスタマイズ出来るようにするのが、私の仕事」と考えていました。

しかし、実際のカスタマイズなさっている実体を見、聞くと「そんな面倒な処理をしなくても、このファイルにこのデータがあるから、それを使えばズーッと簡単だったのに」とか、「それなら、TPiCSにも同じ様な機能があったので、ちょっと見方を変えて頂く必要はありますが そんなプログラムを作らなくても目的とすることが出来たのに」ひどい時には「そんなことをしてはTPiCSは絶対動かないです」というようなことを、ご本人たちは一生懸命なさっています。「もっと早く相談してくれれば良かったですね」という会話で終わることがしょっちゅうです。

## 今回のテーマ

- システム構築（カスタマイズ）のデザイン（巻頭）
- Btrieve版TPiCS-VIIIについて
- 研修会 実践コース、選択コース新設のご案内（現在はやっておりません）
- Microsoft Project 対応について
- 所要量計算スピードテスト（その8）



従来、それらカスタマイズの全体像のデザインのお手伝いを、私のビジネスとして行ってこなかったのが、「当然有料でしょうが、この様な支援はして頂けるのですか？」と聞かれると「弊社のビジネスとしてはやっていないのですが、システムの全体像を考えたりするのは好きなので、私の“趣味”の範囲でお役に立つならどうぞ相談におこし下さい」と言っていました。遠慮されるのか、あるいはそれではあてにならないと思われたのか、設計段階でご相談にみえた方はなく、残念ながら問題が発覚し困ってからの相談の方が圧倒的に多かった訳です。

この仕事は、一部のS I様には疎まれることになるかとは思いますが、敢えて始める決心をしました。S I様の中には(実はTPiCSの経験が少ないS I様の多くは)「パッケージの生産管理システムを使うには、カスタマイズがあたりまえ」とばかりに、TPiCSを導入して頂く時、はじめから沢山の帳票や沢山の入力画面を作ってしまうことがあります。S I様としては、沢山のカスタマイズを受注すればそれだけ受注金額が大きくなるのですから、お客様の要望に添って出来るだけカスタマイズをして納めたいと考えるのはごく自然な発想です。勿論ユーザー様は、「必要だ」と思うから依頼する訳です。ですから、これが巧くいけば全く“めでたい”話です。

しかしこれが、巧くいくとは限らない訳です。「システムが巧く立ち上がらない」とか、いろいろなトラブルの相談を頂くと、犯人がこの“カスタマイズ”であることがよくあります。

私の“カスタマイズ犯人説”の根拠は、次の2つです。

① ユーザーは、どうしても現状のやり方を基準に必要なものを考えてしまう。ということは、TPiCSを導入した後も現状の管理方法をそのまま引きずってしまいます。

管理方法が変わらなければ、物の作り方そのものが変わらず、TPiCSを導入しても●部品の納入遅延は減らず ●毎日何を作るか倉庫を駆け回らなければ決められず ●予定した生産は出来ず ●お客様への納期を守れない、ことになります。慣れないコンピュータを我慢して使っても、いろいろな問題が改善されなければ、だんだん嫌になってしまいます。

② 現場の混乱が改善されなければ、システムにインプットする内容も、混乱したものになります。ということは「使うのがより大変になる」ということです。

しかし問題はこれからです。“混乱”を基本にした考え方の延長でシステムを運用すると、次から次ぎへとカスタマイズの要件が発生し、システムがいつまで経っても収束しません。

また、カスタマイズした箇所が多くなれば、カスタマイズによるバグも発生し、ユーザーもS Iさんも泥沼に入ってしまう。

そこで私は、カスタマイズのシステムデザインの仕事を、次の様なスタンスで行います。

## 1 最低限のカスタマイズでTPiCSが使えるよう全体の仕組をデザインします。

### ●要不要の切り分け

TPiCSの基本機能を使えばカバー出来るものや、ユーザーがMS-Access等を使って簡単に出来るものと、コンピュータのプロがやらなければ難しそうなのものの切り分け。

あるいはシステム立ち上げ時に必要なものと、半年後1年後でも良いものの切り分け等を行います。

### ●カスタマイズ方法(インターフェイス)の設計

- ・TPiCSのどのファイルのどの項目を使うか、
- ・それはTPiCSではどんなタイミングで更新されるから、何時データを読めば良いのか。
- ・外部のシステムで処理した結果をTPiCSに返すには、どのデータとどのデータを一緒にメンテナンスしなければならないか。

- ・そのデータは、TPiCSのファイルに書き込むのが良いか、中間ファイルで持つのが良いか、ユーザーのデータベースで持つのが良いか。

など、データのやり取りをする時のインターフェイスの設計。こんな仕事を私はシステムデザインと呼び、次の要領で行います。

こんな仕事を私はシステムデザインと呼び、次の要領で行います。

◇1~2ヶ月間 4~5回 打ち合わせを行い、ユーザー様S I様の協力の中で、システムデザイン書を作成し、提出します。

◇デザイン書提出後、それを実現出来る力がユーザー様S I様におありになることが前提です。

◇費用は、50万円です。

## 2 プログラムの作成をします。

上記システムデザインの後、コンピュータ技術が不足する為、ちょっと実現するのが難しいユーザー様の為に、最低限必要と思われるものに限りプログラム作成のご依頼をお受けします。

①オフコンとTPiCSの間のデータの受け渡し

プログラムや、通信がからまったり、ちょっと難しかったり面倒な場合、プログラムを作成します。

②あるいは“納入成績リスト”など、簡単な帳票を作成します。

しかしMS-Access等で出来るような範囲のことは、ユーザー様が自分で作れるようになった方が良いに決まっていますから、出来るだけユーザーにやって頂くようにします。見本程度に幾つか帳票を作ったり、簡単な入力画面を作ったりします。

決してMS-Accessの使い方そのものを指導する訳ではありませんから、それらの基礎知識はご自分で勉強して下さい。

私の仕事の基本は、ユーザー様がご自分でなさるのが前提です。「おんぶにだっこ」では、絶対巧くいきません。「しかし今、技術的にちょっと手が届かない」こ

のようなユーザーのお手伝いするだけです。

◇よって費用は、最低限のことを考えています。

例えば、オフコンの販売管理システムと連携する場合、販売管理のシステムから毎日書き出される受注

**このサービスの開始は、4月ですが  
予約や、お打ち合せのスケジュール設定等は、  
今から承ります。**

データをTPiCSに取り込み、所要量計算に繋がります。TPiCS側でインプットした生産実績データを

テキストファイルに書き出し、販売管理システムに渡し、製品在庫を増やします。

さらに毎月末2~3のデータを経理システムに渡すべく、必要なデータを抽出しテキストファイルに書き出すプログラムの作成をして、50万円程頂戴することを考えています。

1項のシステムデザインと合計すると、100万円。多くても合計150万円程度のカスタマイズを上限としてお受けします。

## ● Btrieve版TPiCS-VIIが完成しました。

●DLLサブルーチンも完成しました。

Btrieve版TPiCSのユーザー様は、DLLサブルーチン及びサンプルプログラムを無料でお使い頂けます。

しかしDLLサブルーチンは、ホームページだけでご提供することにしましたので、インターネットでダウンロードして下さい。(DLLについては、前回のレポートもご覧ください)

●Btrieveをお使いになる場合、従来はODBCドライバを別途購入して頂く必要がありましたが、それを無くしました。購入の必要が無くなり且つ、インストール等環境設定が簡単になりました。

また印刷やテキストファイル書き出しの処理及び絞り込んだ結果に対しての処理が速くなりました。

しかしODBCを使わなくすることによりBtrieveの場合SQL文の実行ができなくなってしまいました。

OracleやMS-SQL Server及びMS-Accessの場合は、ユーザーがSQL文を書き自由に絞り込み条件を加えることが出来ましたが、Btrieveの場合は規定の絞り込み条件だけに対応します。

ただしBtrieveデータを他のデータベースと同様自由にSQL文を実行する必要がある場合は、これまでの様にODBCドライバを使用して頂ければ可能です。

●Btrieve版TPiCS-J及び英語版のBtrieve版TPiCS-IVやVIIIも1~2週間の内にはアップロード出来ると思います。

●Btrieve版TPiCS-VIIは、VIIIを見て頂き出来ればVIIIに、或いは下記スーパーTPiCSに移って頂こうと思っています。

●Microsoft社からWindowsNTのSOHO版が発売されますが、TPiCSは当然それにも対応いたします。

●インターネットのホームページのURLが変わりました。

<http://www.tpics.co.jp>

新しいWebサーバにしスペースに余裕が生じたので、これからは出来るだけ沢山の情報をインターネット上で提供したいと思っています。

現在でも、最新版のシステムその他次の様な最新版の資料がアップロードされています。

●Visual Basic版 或いはDOS版TPiCSからBtrieve版TPiCSへのバージョンアップ方法

●DOS版Ver3へのバージョンアップ方法(データの変換手順等の説明)

●MS-Access97で、ODBCを使ってTPiCSのBtrieveデータを直接操作する方法

●DOS版TPiCSとBtrieve版TPiCSでのBtrieveデータの共有方法

●新TPiCSをお使い頂くにあたって

●HASPの設定方法、等の最新情報

●各TPiCS開発状況や今後の予定

●バージョンアップ規定

●研修会の予約状況、

●セミナーや展示会等の案内(SI様独自の企画もご紹介しますので、情報をご提供下さい)

●A2関係のオプションプログラムもダウンロード出来るようにしました。(ご購入ユーザーはパスワードをお問い合わせ下さい)

●各システム毎の仕様変更連絡書(これは従来通りです)

を、アップロードしてあります。ご活用下さい。

今後は、Q&Aも掲載していく予定です。

今後は、Q&Aも掲載していく予定です。

●Brainは、DOS版のまま2,000年対応と郵便番号7桁化を行うことにしました。(3月末完成目標)

Brainはその後、Btrieve版TPiCS-VIIIに機能を吸収させ、スーパーTPiCS(仮称)にして行く構想を持っています。32ビットになった為、技術的にはやりたい放題です。

しかし、使うのはともかく、デモをするのが大変になるだろうと思います。

ユーザー様をご来社下さると、いつも私がデモ及び説明を行います。f-MRPの説明だけで2時間近くかかります。製番管理やコンピュータ技術系の話などは殆どなしでこれだけ時間を必要とするのですから、Brain系の機能までデモをするようになると...

● 「新TPiCS独習マニュアル」が、株式会社ジャストアイティ様から発売されています。

●新TPiCS独習マニュアル (5,000円)

●TPiCS f-MRPの理解 (5,000円)

その他、株式会社ジャストアイティでは、TPiCSの出張教育、TPiCS導入運用指導、現場改善、SI様向けTPiCSの販売支援も行っています。下記へお問い合わせ下さい。

株式会社ジャストアイティ 小松さん(TEL:0462-21-1241 FAX:0462-21-2951)

● 毎回ご案内していますように、研修会に 2回目3回目は 無料で参加できます。

仙台、東京日立、名古屋の各会場では、同一会場に2回目3回目の受講をする場合、その会場に空き席があれば無料で受講出来ます。なお 巣鴨会場はいつも満員であることも含め、無料にはなりません。

## Btrieve版TPiCS-VIIIについて (VIIIの考え方 及び 製番引き当ての新機能)

VIIIは IVとどう違うのですか？

VIIIは VIIとどう違うのですか？

あるいは VIIIは Brainとどう違うのですか？

今回は それについて簡単にご説明します。

VIIIには大きく分けて3つの機能があります。

① f-MRPの機能

IVやVIIと全く同じf-MRPの機能をもっていますので、変化の激しい製造業向けのシステムです。

この機能は、Brainにはありません。

② 部品や材料及び社内工程の履歴を管理する機能

ISO9000やPL法の為に、

使用した材料や、社内の製造工程の履歴を登録及び参照することが出来ます。

材料や部品の受入れ実績をインプットする時、その部材のロット番号をインプットします。

次に生産実績(中間工程でも可)をインプットすると、マスター登録されている子部品が一覧で表示されます。その中で部品を指定すると、その子部品の未使用のロット番号毎の在庫が表示されるので、それを選択し登録します。

1つのロットが複数の生産に使われたり、1回の生産に複数のロットを使用する等、多対多の登録が可能です。登録されたデータを色々な角度から 検索 絞り込みを行い、表示及び印刷することが出来ます。

この機能は、IV、VII、Brainにはありません。

③ 製番管理の機能

TPiCSにはせっかく速いサイクルでもものを作る仕組みがあるのに、そこに従来の製番管理の考え方を持ち込むと、どうしても流れに竿を刺すようになってしま

い、製番の機能がかえって足手まといになってしまいます。

VIIIは、従来の「製番により展開する」というような考え方ではなく、「製番の色付け」と「部品手配」を分けて考えます。

つまり 部品手配は、f-MRPの機能で変化を吸収しながら出来るだけ速いサイクルで行います。

それとは別に、製番で色付けが必要なものを登録し、色付けすべき“明細データ”を作ります。

必要に応じ、必要な時に、“明細データ”と注残データを紐付けします。

発注する時 製番が決まってない場合は、後から製番を引き当てる事が出来ますし、

製番を登録しても、部品によってはまだ発注時期が来ていないものもあります。後日その部品が発注されると、自動的に紐付けすることもできます。

しかし、従来は 伝票を発行する時、既に作られている“明細データ”の中でまだ紐付けされていないものを探し自動的に紐付けする機能はありませんでしたが、今回新TPiCS-VIII開発の中で 新しい機能として追加しました。

この機能は、DOS版のVIIIにも備えました。

ただしDOS版の場合は、伝票データに“明細データ”を引き当てた後の修正が、新TPiCS-VIIIと比べると自由度が少ないです。

この機能は、IVにはありません。

TPiCS-VIIの新TPiCS版は、新TPiCS-VIIIを見て頂き 可能なら、VIIIに吸収 つまりVIIからVIIIに移って頂きたいと思っています。

## TPiCS研修会、実践コース、選択コースのご案内 (現在はやっておりません)

この道一筋に14年間仕事を続けて参りまして、お蔭様で約1,000社のユーザー様に使って頂ける様になり「どうもTPiCSが一番良さそうだ」という評価も なんとか頂ける様になったかと思えます。

しかし「うちで使いこなせるかなー」という声も沢山聞きます。

そこで「TPiCSを使って頂けるような環境作り」が、私の次の仕事だと思い、前回のレポートでご案内した実践コースに加え、下記の選択コースも4月から始めようと思えます。

● 「TPiCS導入の成功事例」

● 「経営者、管理者の為のTPiCSはわかり講座」

● 「TPiCSによる納期短縮の具体的進め方」

私は、普段ユーザー様のシステム導入に立ち合わないので、これらの話は 直接導入指導をしているコンサルタントの先生の方が良いかと思い、株式会社ジャストアイティの小松さんをお願いします。

こんなテーマで継続して開催していくつもりです。

スケジュール 及び お申し込み方法は、このレポートのピンクのページあるいはホームページをご覧ください。

## Microsoft Project 対応について

私が初めて Microsoft Project を見たのは、丁度10年前だったと思います。

Brainのスケジュール画面だけを切り取った簡単なプログラムを OEMで某社に提供していた頃の話です。そのOEM先の方に MS-Project の存在を教わりました。不思議なことにMicrosoft社は、MS-Projectの広告を殆どしなかったもので、それをご存知の方は少ないと思います。

今でもMicrosoft社は、なぜかMS-Projectの宣伝には余り熱心ではないようです。ましてやこれが「生産管理に使える」ような宣伝は全く(?)していません。事実、MS-Project95まではちょっと無理でした。しかし先日発売されたMS-Project98になってから、なんとかいけそうです。

そこで早速新TPiCSの中に「MS-Project 様へデータを書き出す」機能を追加しました。

今後「MS-Projectのデータを取り込む」機能も追加していくつもりです。

TPiCSがMS-Projectと連携することにより、

- TPiCSのデータを見慣れたガントチャートでビジュアルに見ることが出来ます。
- マウス操作だけで、負荷山積みの調整が出来、その結果をTPiCSに返し、次の手配に繋げることが出来ます。

しかしMS-Projectを生産管理に使う為には、ちょっとした設定が必要です。私も見はじめたばかりなので、解らないことが多いのですが...

① デフォルトでは、数値フィールドや標準時間フィールドが無いので、それらを追加しなければなりません。

[表示] - [テーブル: 入力] - [その他のテーブル] - [入力] - [編集] で項目の追加をします。

例えば、「名称」を「テキスト1」に割り当てます。

「数量」は「数値1」を割り当てます。

「ID」を「固有ID」に「先行タスク」は「先行タスクの固有ID」に変更して下さい。

また、フィールド名がTPiCSには馴染みにくい言葉なので、私は「タスク名」を「アイテムコード」に、「リソース名」は「製造担当」としました。

その他、「注番」等必要なフィールドを追加します。

② TPiCSのデータを取り込む為には「ファイルを開く」で新TPiCSから書き出された「TPiCS.TXT」を指定し、[開く] 訳ですが「マップ」とよばれる、読込方法を指定します。

初めての時は、ここで読込方法を設定できます。

[新しいマップ] の [オプション] で「インポート/エクスポートするデータ」で◎タスクを選択し、

「テキストファイルのオプション」で「ヘッダ行をエクスポートまたはインポートする」をチェックします。また、区切る文字は「,」を選択します。

ファイルの文字セットは「Windows」です。

さらに「タスクマップ」で、①で設定したMS-Projectのフィールドとテキストファイルのフィールドを結びつけます。

フィールド間の結び付けは基本的には自由ですが、今後MS-Projectで調整した結果をテキストファイルに書き出しそれを新TPiCS側で読み込むようになるので、キーワードに関しては結びつけのルールが必要になる筈です。

またこの「タスクマップ」で、「データを読み込む方法」も設定します。「主キーにより現在のプロジェクトにマージ」を選択して下さい。

すると「主キー設定」ボタンが使えるようになりますので、「固有ID」を主キーに設定して下さい。

なお、Microsoft Projectの価格は6~7万円です。

## 所要量計算スピードテスト (その8)

今回は、TPiCSのアドバンスドSIである株式会社アートシステム様でやって頂いた結果と、前回のテストの続報を掲載します。

株式会社アートシステムさんで、200,000件のマスターで所要量計算をしたテスト結果

サーバ

CPU : Pentium Pro 200MHz 2個  
SCSI : DualWide/Ultrascsi コントローラ、  
メモリ : 384MB  
OS : WindowsNT4.0 サーバ

クライアント

CPU : Pentium MMX 233MHz  
メモリ : 96MB  
OS : Windows95

ネットワーク : 100Base-TX

TPiCS : DOS版 IV

Windows95 のDOSプロンプトで実行

Btrieve : WindowsNT サーバ版 Ver6.15

DOS版 Btrieve.EXE Ver5.10a

Btrieve	所要時間
サーバ版 Btrieve	2 6 分 3 8 秒
ローカル Btrieve	1 2 分 1 4 秒

ネットワークでシステムを動かす場合「データベース機能をサーバに置いた方が速くなる」と誤解している方が多いですが、このテストでもデータベース機能つまりBtrieveをクライアント側に置いた方が圧倒的に速いようです。

全てのネットワーク(クライアント数、トラフィック量、稼働の時間帯)で同じ結果が得られるとは思いませんが、CPU及びメモリにこれだけ差があってもクライアントのBtrieveがサーバ版Btrieveの2倍以上

のスピードが出たのは、私も驚きです。

「クライアントに Btrieve を置いたのでは、排他制御が出来ない」と勘違いしている方も多いのですが、これも誤解です 念の為。

### 前回のスピードテストの続報

Oracle や MS-SQL Server のあまりの遅さに、大きな反響を頂きました。

その後 色々試しましたが、今回時間の関係で報告出来るような形でのテストが出来ていません。

現在解っていることだけ簡単に報告したいと思います。

① ツインCPUの Pentium II 機でのテストしました。

Oracle で試したところ、これは全く効果がありませんでした。

Oracle に詳しい方に聞くと、クライアントが1台だけで、それがさらに1つのタスク（所要量計算）が動いているだけでは、効果が出ないのだそうです。複数のCPUが、クライアントからの要求の整理、

データベース自身の内部処理、ディスクコントロールなど、水平分担してくれるものと思っていましたが、そうではないそうです。

② サーバのメモリを増やしてみました。

前回 64M : 今回 192M。「64K 以上メモリを増やしてもスピードアップの効果は出ない」というアドバイスと「メモリを増やすと速くなる」の2つを聞いていましたが、もう少しきちんとしたテストをしないと はっきりしたことが言えないのですが、現状顕著な効果が無かったというのが実情です。

③ WindowsNT の雑誌（日経 WindowsNT 97/12 号）に MS-SQL Server の環境設定の記事が出ていたので試してみました。これは効果があるようなのですが、弊社のテストの前提をクリアにすることが出来なかったため、数値での報告は次回にさせていただきます。

その他 WAN で使った場合や、メモリ上で展開した場合についても、次回に廻したいと思います。

◆ 1～2週間の内に J も完成し、これで私が予定していた全ての **新TPiCS** 化が終わります。

この1年の開発経緯を振り返ってみると、当初は 流行りの RDB に全て依存するつもりで開発しました。しかし 開発が進むに連れその遅さが気になり始めます。当時 新しい ODBC ドライバーが2～3ヵ月後に発売される予定だったため、ODBC と Btrieve の組み合わせの可能性に一縷の望みをたくし路線を変更せず開発を続けます。しかし発売された ODBC ドライバーは、私が望むようなものではありませんでした。これが Btrieve かと思うようなスピードです。これでは使い物にならないと、そこで意を決し その時殆ど出来上がっていたシステムを壊し、直接 Btrieve を操作できるようシステムの改修を始めました。第一ステップとして、通常の処理は Btrieve だけで動作し、絞り込みをする時だけ、ODBC を使うようにしました。その後 更に '97 年末、ODBC を全く使わないバージョンに改修した訳です。私は、スピード、価格の安さ、安定性、排他制御機能の完璧さ等、全てにわたり Btrieve が圧倒的に優れていると思っていますが、RDB のニーズも強いため 多大な時間をついやし

RDB と Btrieve が両立できるようにしました。

Btrieve の唯一の弱点は、Btrieve を直接操作出来るツールが少ないことです。

そこで、MS-Access から ODBC 経由で TPiCS の Btrieve データを操作する方法をホームページにアップロードしました。ODBC 経由だと RDB 並みになってしまいますが、帳票を印刷ような用途ならこれで充分です。

しかし おかげで本当に使い物になるシステムの土台が完成したので、DOS の時代の様に「ワープロで文章を書くより速く」新しいことを 次々また実現できそうです。

◆ 先日 PC WEEK November 28 1997 (ソフトバンク株式会社) を見ていたら気になる記事が目にとまりました。

「埋もれた ERP データはどうすれば解き放てるか？」というタイトルの記事です。

お読みになった方も多いと思いますが「ロックフォードフォスゲート社が、Oracle Applications の ERP パッケージを導入し稼働しはじめたが、独自の分析に使うため別のデータベースに読み込ませたところ、最長38時間かかった」という事例に始まり「各 ERP ベンダーがこぞってデータウェアハウスやOLAPツールを追加するというアナウンスをしたが、SAPのような大手であってもユーザーを満足させるほど高速で強力な意思決定ツールを出せるかどうか、まだ明らかでない」と書かれています。

この業界の中の“本音の話”の中では、いろいろ耳にしますが、これらの話もだんだん表に出てくるようになったのでしょうか。

先日、この業界を代表する雑誌記者の方と「私は、今時点 少なくともあと1～2年は、業務系のソフトは、DOS と NetWare の環境の方が、絶対良いと思っています。しかし 最近は、DOS 版はほとんど出ません。

よし悪し、向き不向きを無視したようなこの Windows 化や RDB 指向の風潮の責任の多くは、あなたがたメディアにあるのではないですか」に対し「いや 我々も同じなのです。DOS や NetWare のことを書いていたのでは、雑誌が売れないのです」昭和10年代の日本みたいで、まっとうなことをいうと、皆 生きていけないのです。

最近よく目にします「パソコンブームに陰りが出た」と、しかし 私は 当然だと思っています。

「Windows だから簡単！」何が簡単なもんか！ インターネットも同じです。「詳しいことはホームページをご覧ください」と書かれているのでのぞいて見ると、手元にある資料と同じ程度のことしか書いてない。

何かに憑かれた様に突進するというのは、この分野に止まらず昨今の経済問題も同じかと思っています。

“ムーディーズ”とかいうやからがちょっと鉛筆を舐めると、一国の経済がガタガタになってしまう。テレビを見ていると“経済学者”が「過剰投資があり... 金融システムに問題が...」と尤もらしく説明していますが、成長ざかりの国の製造業が過剰投資ぎみになるのは当たり前です。日本だって、過去 皆そうしてきたはず

です。そもそも、設備投資には投機的な意味が有るわけで、過剰か適性かは“学者の結果論”でしかない訳です。私には、そんな尤もらしい話より「何かに振り回される我々と、それを操って 想像もつかないような巨額の富を得ている何者か」が見えるのです。

◆通常サポートの仕事を完全に外部に依頼出来ることになりました。実は、マニュアルも 今後はサポートセンターで作るようにしました。これから新しく作るマニュアルがもっと解りやすく良いマニュアルになることを願っています。

昔から私は、生産管理分野のビジネスの最大のポイントは「ユーザーサポート」と「教育」と思っていました。これからTPiCSが **日本の製造業のスタンダードシステムとなる**べく、更なる飛躍をしたいと思います。

生産管理のシステムをサポート無しで使用するのはやはり大変です。今後 益々ユーザー数が増えて来るはずで、そうなると、サポートの仕事がシステム開発の足を引っ張るのは明らかです。

なんとかそのジレンマを解決したいと思った私なりの解決策です。

もっと良いシステムにしたい、もっともっと沢山の企業に使って頂きたい。そしてこれから益々厳しくなる日本の製造業が、新しい時代に対応できるようになって欲しいと思います。

二ノ宮